

中日主題文の構文的差異

中国北京日本学研究センター 施建軍 , 日本国立国語研究所 中野洋

Beijing Japanese Study Center:SHI Jianjun(SHIJJ@ryzx.bfsu.edu.cn)
The National Language Res.Inst.:NAKANO Hiroshi(nakano@kokken.go.jp)

中国語の主題文は中国語の特徴を十分に反映しており、その構造の解明は中国語の文に関わる数多くの難題の解明につながると思われる。しかし、中国語が形態的な特徴を欠いているため、従来、中国語学の研究者は中国語の文の研究において、他の言語とくらべてより多くの困難を感じてきた。日本語は中国語より形態的にはるかに発達しているが、同時に日本語の主題文の構造は中国語のそれとよく似ている。本研究は中国語と日本語の接点であるこの主題を鍵として、日本語の主題に関する理論に示唆を求めつつ、中国語の主題文の構造を分析した。

中国語と日本語は主題文が主題と叙述部からなっていると言う点でよく似ている。日本語の主題は普通話し手が発話するとき格成分を主題化してできたものである。格成分以外のものからできたものもある。具体的には次のようである。

一、連体修飾成分の主題化

○象は鼻が長い。

二、連体修飾成分に修飾されている成分の主題化

○辞書は新しいのがいい。

三、述語名詞の連体修飾成分の主題化

○カキ料理は広島が本場だ。

四、述語節の主題化

○花が咲くのは7月のころだ。

五、破格の主題文

○このにおいはガスが漏れているよ。

一方、中国語の主題の状況はどうか。この問題を解決するにあたって、まず、中国語に主題というものがあるのか、またそれは主格（主語）とどんな違いがあるのかという点をはっきりさせておかねばならない。

主謂謂語文や連体修飾成分などに対する考察によれば中国語には主題と主格

(主語)の区別違いが認められる。中国語の文法構造は自由に文の成分として使えるという点から見れば確かに文の構成要素であるが、文法構造そのものだけでは文にはなり得ない。文というものは言語運用の単位としては普通言表事態と言表態度からなる。文法構造はそれを構成する各成分の間に意味的な関係が強く、格関係で結ばれている。そのため、文法構造は普通、一つの語のように文の成分として使える。これらの特徴は全て言表事態を表すものの特徴であり、言表態度を構成できるものではない。そこで、本稿では中国語の文法構造を構成する各成分を格成分と認め、文法構造の中に位置する動作の仕手と性質や状態の持ち主を主格(主語)と称する。文法構造の中の格成分は文頭に取り上げられ、言表態度を与えられてはじめて主題になり、残った部分が主題を説明する叙述部になって、文法構造は文に進展変化することが出来る。中国語の文頭に立つ体言の部分は複数の叙述部に説明され、叙述部に位置する述語と種種の格関係を持つことが可能であり、その勢いが複数の叙述部を貫いているがゆえに、これを主題と認めるのである。中国語の文は基本的に「主題＋叙述部」という関係を中心に構成されている。中国語の主題は格成分が主題化されてできたものもあれば、格成分以外のものが主題化されてできたものもある。中国語の主題文は主として、次の六つのタイプがある。

一、 格成分が主題化された主題文

○外面的谣言他不大往心里听。《骆驼祥子》

二、 連体修飾成分が主題化された主題文

○泡桐木材优点很多。《一个好树种-泡桐》

三、 連体修飾成分に修飾された体言が主題化された主題文

○姜是老的辣。

四、 述語名詞の連体修飾成分が主題化された主題文

○发展经济人才是关键。《北京日报》

五、 一つの叙述部が主題化された主題文

○赋予他权利的是人民。《北京日报》

六、 破格の主題文(過剰型、不足型、漠然型)

○斗嘴他是斗不过他们的。《骆驼祥子》

《骆驼祥子》、中学校、高等学校のテキスト《語文》、《北京日報》(1993)

年2月1月から2月20日まで) に対する考察によれば中国語の主題文は日本語のそれと似ている点もあれば、違っている点もある。格成分の主題化については、日本語と同じように中国語の主格と賓格はもっとも主題化されやすいものである。日本語の「と格」が主題化することができないのに対して、中国語の隣体は主題化され得るものの、そういう場合はまれである。中国語の「凭借」格は普通方法、方式、材料、道具などを含むが、その中で、もっとも主題化しやすいものは材料である。方法、道具は主題化され得るが、まれである。方式はほとんど主題化することができない。これに対し、日本語の「で格」は「場所」を表す「で格」以外のもの、すなわち、方法、手段を表す「で格」は主題化することができない。時間格、場所格の主題化は、日本語の場合は「は」という表記があるため、それが主題化されているかどうかはわかるが、中国語の場合は「は」のようなものがないだけでなく、中国語の時間格と場所格は主題化されなくても文頭に立つことも可能なため、それが主題化されているかどうかは判別しにくい。

格成分以外のものの主題化については、日本語にも中国語にも現れているが、それぞれ独自の特徴を持っている。特に、述語名詞の連体修飾成分の主題化と叙述部の主題化については、日本語の場合は話を簡潔にするためにこれらをよく主題化するのに対し、中国語の場合はこれらが単純なものである場合に限って主題化することができる。これは「头重脚轻」をさけるという中国人の言語意識によるものである。この点は中国語と日本語の根本的な差異の一つといえよう。また、過剰型、不足型、漠然型などの破格の主題文のタイプは、日本語の場合は言葉を簡潔するためのものもあれば、誤用とされるものもある。これに対して中国語の場合はこれらのタイプの文は話し手の何かの間違いによるものとはみなされない。特に過剰型の場合、話し手が述語の部分の一つコピーして主題として文頭に付け加えることによって、強い決心や主張などを表すのは普通に見られる。連体修飾成分と連体修飾成分に修飾された体言の主題化の状況に関しては日本語と中国語はほとんど同じである。しかし、連体修飾成分の主題化の過程については、日本語の場合は、主題になったものが「体言+が」から来た説、「体言+の」から来た説、「体言+の」から「体言+が」を経由して来た説などの三つの説があるが、中国語の場合は、「体言+的」から来たとするのが一般的な見方である。

以上のように中国語の主題文の体系を一応構築してみたが、時間の制約で、ま

だ、解決に至っていない、将来の課題として残った問題も二つある。第一は時間と場所の問題である。中国語の時間と場所はもともと文頭に位置することが出来る。その場合、主題化されたものとそうでないものをどう区別するか、またその根拠をどこに求めるのかと言う問題は形態的に発達していない中国語にとってはきわめて解決が難しい。第二に、上述の6つのタイプに収めきれない幾つかの類例が残っている。例えば：

- 水里火里他都热心帮忙。／彼はたとえ火の中水の中へ飛び込んででも、人助けをしなければ気がおさまらぬ性分だ（といていた）。
- 刘老头子的优待祥子是另有笔帐儿。／しかし、劉爺さんの祥子に対する優待ぶりは、確かに人並み外れていたこともまた事実ではあった。
- 这点私心他觉得怪对不住她的。《骆驼祥子》
- 今儿个的事，先生既没有说什么，算了就算了。／今日のことは先生があ言われるのだから、もうお前さんは何も心配することはいらない。
- 咱们俩是谁该听谁的？《骆驼祥子》
景泰蓝拿红铜做胎《景泰蓝的制作》
- 那么不容易省下来的还是得往正路走，一定。／これまでに貯めるには並み大抵の苦勞ではなかったのだ。やはり正道を歩こう。
- 这点小雪，他以为没有支起车棚的必要。／だから、これくらいの小雪ではもちろん幌などかける必要はなく、（まして、この美しい夜の雪景色を觀賞するには幌などかけない方がどれだけ好都合だかしのれない。）

これらの用例をどう分類するか、日本語にもあるのか。これも将来の研究課題として行きたい。

参考文献：

- 三上 章(1960)『象は鼻が長い』 くろしお出版
- 野田尚史(1996) 『「は」と「が」』 くろしお出版
- 马建忠 《马氏文通》 商务印书馆 1983年版
- 吕淑湘 《中国文法要略》 商务印书馆 1983年版
- 朱德熙 《语法讲义》 商务印书馆 1984年版